

令和2年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和2年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和2年9月16日(水)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	115人	社会	115人	数学	115人
	理科	115人	英語	115人		

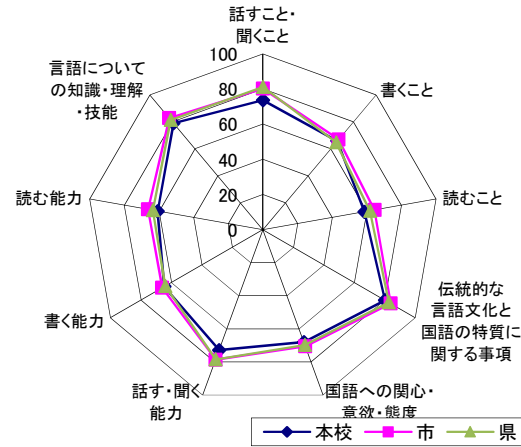
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	73.7	80.2	81.2
	書くこと	65.9	66.9	64.8
	読むこと	58.7	64.5	61.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.2	83.9	82.6
観点	国語への関心・意欲・態度	68.0	70.5	69.7
	話す・聞く能力	72.8	78.6	78.5
	書く能力	64.7	66.1	64.1
	読む能力	60.8	66.3	63.5
	言語についての知識・理解・技能	79.1	82.8	81.5



★指導の工夫と改善

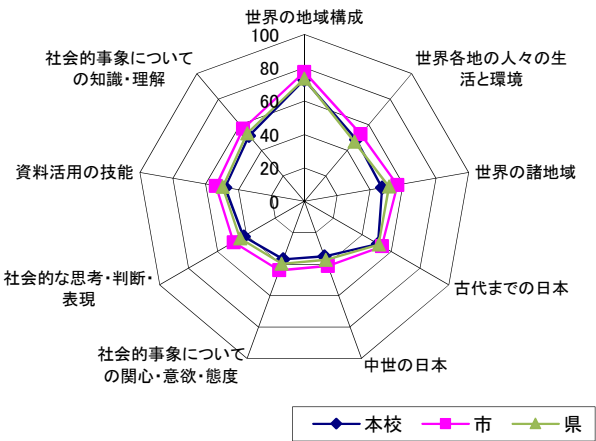
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容を聞き取る問題では、話の話題と相手の発言に注意しながら内容を正確に聞き取ることができている。 ●全体としての正答率は、市の平均を3.6ポイント、県の平均を2.2ポイント下回っている。話の構成を工夫して、相手に分かりやすく伝えることの正答率が低い。	・聞き取ることは得意だが、話すこと、特に人前で言いたいことを発表することが苦手な生徒が多い。国語の授業の中で、発表をする機会を増やし、発言のしかたを訓練するとともに、聞いている人の興味や関心を高め、分かりやすい話し方を工夫する活動を取り入れていく。
書くこと	○ポスターの表現の特徴を書く、また自分の考えと根拠を明確にして書く問題では、県の平均を2ポイント上回っている。 ●全体としての正答率は、市の平均を1.5ポイント、県の平均を1.3ポイント下回っている。資料を作成し、発表する領域をまたぐ問題において、文章構成について意見を述べることの正答率が低い。	・授業の中に小作文や短作文を書かせる作業を取り入れて、内容をまとめたり自分の意見や考えを作文したり推敲したりする習慣を身につけさせる。また、条件に沿った文章が書けるように、型やモデルを示すなど指導を工夫していく。
読むこと	○文学作品の場面の展開を捉える問題の正答率は県平均を1.7ポイント上回っている。 ●全体としての正答率は、市の平均を5.0ポイント、県の平均を3.4ポイント下回っている。特に説明文の展開に即して内容を捉え、その内容を整理する問題の正答率が低い。	・授業の中で文章の展開に即して内容をとらえる作業に重点を置きながら、接続詞に注目して要旨をとらえる方法や指示される内容を理解する力を継続して身につけさせる。 ・朝の読書やブックトークにより読書習慣は多くの生徒に身に付いている。今後も多彩な作品に触れていく機会を設けていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○全体としての正答率は、県の平均を0.5ポイント上回っている。既習漢字の読みの正答率は概ね80ポイントを上回り、書きの正答率も県を上回っているものが多い。文節の関係についての理解は県の正答率を10.3ポイント上回っている。 ●全体としての正答率は、市の平均を0.6ポイント下回っている。特に単語についての理解に課題がある。	・「読めるけど書けない」。小学校での既習漢字を含め、学年配当の漢字を継続的に練習し、確認テストをする。 ・文法に苦手意識を持っている生徒が多いので、授業に興味を持ち、意欲的に取り組めるような工夫をするとともに、反復練習させることで定着を図る。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	72.9	77.5	73.5
	世界各地の人々の生活と環境	48.4	52.6	46.7
	世界の諸地域	47.3	56.6	51.5
	古代までの日本	50.9	53.7	51.5
	中世の日本	35.0	41.2	37.3
観点	社会的事象についての関心・意欲・態度	36.9	43.9	39.7
	社会的な思考・判断・表現	41.9	48.8	44.4
	資料活用・技能	48.2	53.8	49.6
	社会的事象についての知識・理解	51.5	57.0	53.2



★指導の工夫と改善

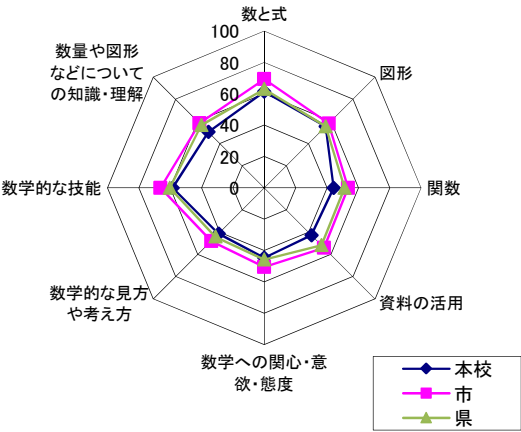
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○すべての問題の正答率が目標値を上回った。 ●全体としての正答率は、市の平均を4.6ポイント、県の平均を0.6ポイント下回っているが、昨年度よりもその差は縮まった。	・重要語句を覚えるための反復学習を継続する。 ・さまざまな地図を利用し、基本となる世界の地域区分を地図上で示せるような学習を継続する。
世界各地の人々の生活と環境	○すべての問題の正答率が目標値を上回り、特に「宗教」と「住居」に関する問いの正答率は、目標値に対し、+5ポイント以上になっている。 ●正答率は、市の平均を4.2ポイント、県の平均を1.7ポイント下回っているが、昨年度よりもその差は縮まった。	・重要語句を覚えるための反復学習を継続する。 ・地図を活用し、それぞれの地域の衣食住の特色を視覚的に理解させる学習を継続する。
世界の諸地域	●正答率が目標値を下回った問題が半分を占めた。特に、資料を活用して表現する問題や、「ヨーロッパ」「南アメリカ」「オーストラリア」の問題の正答率は、目標値を-5ポイント以上下回った。 ●正答率は、市の平均を9.3ポイント、県の平均を4.2ポイント下回り、昨年度よりもその差は広がった。	・重要語句を覚えるための反復学習をより多く取り入れる。 ・複数の資料を組み合わせ考えて、それを言葉や文章に表現する学習をより多く取り入れる。 ・地図を活用し、それぞれの地域の特色を視覚的に理解させる学習をより多く取り入れる。
古代までの日本	●正答率が目標値を下回った問題が半分を占めた。特に、「埴輪」「大化の改新」「仏教文化」の問題の正答率は、目標値を-5ポイント以上下回った。 ●正答率は、市の平均を2.8ポイント、県の平均を0.6ポイント下回っているが、昨年度よりもその差は縮まった。	・重要語句を覚えるための反復学習をより多く取り入れる。 ・年表を活用し、時代の流れを把握できるように工夫する。
中世の日本	●正答率が目標値を下回った問題がほとんどだった。特に、資料を活用して表現する問題や、「モンゴル帝国」「応仁の乱」の問題の正答率は、目標値を-5ポイント以上下回った。 ●正答率は、市の平均を6.2ポイント、県の平均を2.3ポイント下回っているが、昨年度よりもその差は縮まった。	・重要語句を覚えるための反復学習をより多く取り入れる。 ・複数の資料を組み合わせ考えて、それを言葉や文章に表現する学習をより多く取り入れる。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	61.4	69.3	63.0
	図形	55.5	58.1	55.5
	関数	44.3	53.4	51.2
	資料の活用	42.6	54.0	51.7
観点	数学への関心・意欲・態度	44.6	50.4	45.7
	数学的な見方や考え方	41.2	47.8	44.0
	数学的な技能	58.4	66.1	60.3
	数量や図形などについての知識・理解	50.4	58.3	56.7



★指導の工夫と改善

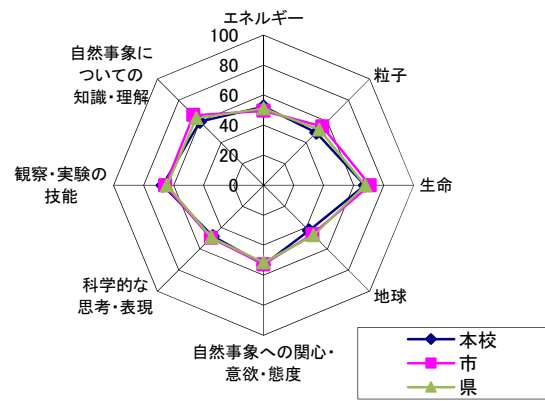
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正の数、負の数の正解率が高い。 ●全体としての正答率は、市の平均を7.9ポイント、県の平均を1.6ポイント下回っている。特に、一次式や方程式など文字が入ってくるとつまづいている。	・移項による符号の変形や同類項の加減法など、もう一度重点的にやって身につけさせる。 ・計算技能の定着を図るために、演習時間を確保していく補助プリントを活用する。
図形	○空間図形に関する問題に対して正解率が高い。 ●全体としての正答率は、市の平均を2.6ポイント下回っている、県の平均は同じである。面積や長さを求める図形の計量の正解率が低い。	・今後の図形の証明を扱う際には、移動と合同など基本的な図形の性質を振り返りつつ、パターン的な反復練習を取り入れる。 ・デジタル教科書を用いて、視覚的に理解を深めさせる。
関数	○比例、反比例の基礎的な問題はできている。 ●全体としての正答率は、市の平均を9.1ポイント、県の平均を6.9ポイント下回っている。関数についての理解ができていない。 ●基本的な用語の意味(求めたいもの)が分からないため、解決のための手立てが見いだせない。	・1次関数の学習時に1年生での、比例・反比例についてよく復習しながら学習していく。 ・グラフのもつ意味や見方、表とグラフの関係などの理解を深めさせていきたい。また、基礎的な用語の意味についても繰り返し押さえない。
資料の活用	○資料から読み取る力はある。 ●全体としての正答率は、市の平均を11.4ポイント、県の平均を9.1ポイント下回っている。県と市の平均を大きく下回っている。読み取ったものを表現していく力は乏しく、今後の課題になってくる。	・授業中の反応は良かったがテストになると点数がとれていない。繰り返しの学習時間が足りていないように思う。 ・今後の確率では、文章を読み取って場面を把握する力が必要であるため、樹形図やパターン分けなど順序よく考えて分かりやすくする方法について指導する。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	52.4	49.5	51.1
	粒子	49.6	55.3	52.4
	生命	67.5	70.8	67.7
	地球	42.8	46.2	47.1
観点	自然事象への関心・意欲・態度	52.8	52.7	51.5
	科学的な思考・表現	48.0	49.6	49.1
	観察・実験の技能	67.2	65.6	64.4
	自然事象についての知識・理解	60.0	66.1	63.3



★指導の工夫と改善

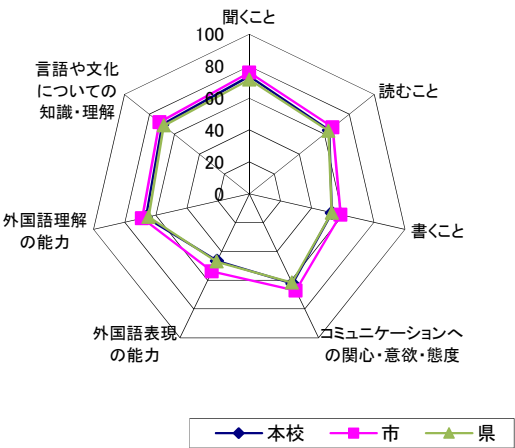
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○音の速さ、重力の大きさとばねののびとの関係についての正答率が目標値を上回っている。 ●光の全反射、圧力についての正答率が目標値を下回っている。	・生活体験をもとに、理科の学習内容が日常生活とどう結びついているのかを意識させていくことで、学習への関心・意欲を向上させたい。
粒子	○ガスバーナーの炎の色と酸素との関係についての正答率が目標値を上回っている。 ●酸素の発生方法、質量パーセント濃度、実験をする上での注意事項についての正答率が目標値を下回っている。	・目に見えない事象について、モデルを使って考え、説明するような学習活動を充実させていく。 ・計算問題については、少数のかけ算、割り算ができない生徒への個別支援をしていかななくてはならない。
生命	○光合成、種子植物についての正答率が目標値を上回っている。 ●実験の結果を考察する問題についての正答率が目標値を下回っている。	・実験を行い、実験結果から何がわかるのかを考察するとき、必要になってくる用語を適宜示しながら、正しい方向に導いていく工夫をする。
地球	○侵食についての正答率が目標値を上回っている。 ●鉱物、堆積岩の粒の違い、地層の順序についての正答率が目標値を下回っている。	・基本的な学習内容については、定期的に小テストを行うなど、こまめに定着度の向上を図る必要がある。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	73.7	76.0	71.6
	読むこと	63.9	66.7	63.3
	書くこと	53.1	58.7	53.0
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	62.4	67.2	61.7
	外国語表現の能力	46.6	53.9	47.1
	外国語理解の能力	66.4	68.8	64.7
	言語や文化についての知識・理解	69.7	71.9	68.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○全体的に良好な結果となった。特に「絵を適切に表している英文を聞き取ることができる」や、「対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる」は5ポイント以上全国正答率を上回った。 ●「対話の内容を聞き取り、絵をもとに英語で答えることができる」が、7ポイント下回った。	・授業中の教師と生徒、生徒同士の対話を増やす。あらかじめ用意された原稿を見ての会話ではなく、質問に対して自分の考えで適切に答えられるよう指導していく。 ・自己表現の活動を更に活発に行わせる。
読むこと	○全体的に良好な結果であった。特に can の否定文の語形・語法の理解が全国正答率を11.4ポイント上回った。 ●「疑問詞 when の語形・語法を理解することができる」が全国正答率を8ポイント下回った。	・教科書以外の興味深い読み物にも触れさせ、英文を読み理解することの喜びを味わわせる。 ・一般動詞とBe動詞の違いについての理解を更に深めさせ、質問に対して適切に答える方法についての演習を多く取り入れる。
書くこと	○全体的に良好な結果であった。特に what を使って何をしているのかをたずねる英文については、全国正答率を12.2ポイント上回った。 ●市の正答率には至らず、書くことが本校生徒の最も苦手な領域であることが表れた結果であった。where を使った疑問文、「わたしのです」と答える英文が、全国正答率を大きく下回った。また、「学校にあるものについて、まとめた内容で説明する文を書き表すことができる」も全国正答率を大きく下回った。	・教科書の内容とは別に、既習事項を用いての英文を書く活動を授業中に毎時間継続して取り入れていく。 ・家族や友人、自分の趣味など書きやすいトピックを活用し、短い英文を書くところからスタートし、徐々に量を増やし、英語を書くことに自信をつけさせる。

宇都宮市立国本中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家で、学校の授業の予習をしている(肯定している)生徒の割合が市や県の平均よりも高くなっている。予習の質を高めるような指導、助言を続けていきたい。

○学校の授業時間以外の勉強時間について、2時間以上という生徒の割合が市や県の平均よりも高くなっている。学習に意欲的に取り組む姿勢をより育てていきたい。

○クラスは発言しやすい雰囲気であると肯定的にとらえている生徒の割合が市や県の平均よりも高くなっている。グループ学習だけでなく、一斉授業の中でも一人一人の生徒の発言が大切にされるような指導を続けていきたい。

●学校の授業時間以外の学習を「全くしない」「少ない」という生徒の割合が市や県の平均よりも高くなっている。学習に対する意欲の二極化が心配される。学習につまずきが見られる生徒への支援を充実させたい。

●授業の中で、目標が示されている、振り返りが行われているという割合が市や県の平均よりも低くなっている。普段の授業のあり方を見直し、基本に忠実に授業を行うようにしたい。

●授業でわからないことがあると先生に聞くことができる生徒の割合が市や県の平均よりも低くなっている。生徒とのより良い人間関係の構築を続けながら、質問することに慣れさせる、質問をする経験を積む場面を設定するなどの工夫をしていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
- 生徒を認め生かす授業の展開 - 学びに向かう力の育成	- 発表の仕方やノートの取り方など言語環境の整備 - 学習の約束の徹底 - 協同的な学習の推進 - 効果的な発問、指示、助言、板書の工夫	- グループでの話し合いに自分から進んで参加している、授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると肯定的にとらえている生徒は少ない。 - 授業の組み立て方(目標の提示、振り返り)については改善の余地が大きい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
授業の中で、目標が示されている生徒の割合が低い。また、授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている生徒の割合も低い。	授業における目標・まとめ・振り返りの充実 ＝「宇都宮モデル」に基づいた授業改善の推進	教職員…「宇都宮モデル」についての職員の理解を深め、各授業でめあての提示とまとめ・振り返りを実践する。